

当院における新生児輸血の血液製剤分割およびシリンジ分注に関する現状と課題

◎渡邊 菜々子¹⁾、安藤 知恵¹⁾、南條 和磨¹⁾、山中 まゆみ¹⁾、安藤 玲南¹⁾、熊坂 肇¹⁾、渡 智久¹⁾、大塚 喜人¹⁾
医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院¹⁾

【はじめに】当院では新生児輸血の血液製剤分割およびシリンジ分注を2010年10月から実施しているが、月曜から土曜の8時～17時のみとしている。分割のタイミングは、RBC:交差試験後、FFP:解凍後、PC:使用直前で、臨床から指定された本数に分割している。分注は全製剤使用直前に実施している。業務拡大をするうえで、現状と課題について検討した。

【対象・方法】期間は2018年4月から2023年3月の5年間とし、依頼時間、使用時間、分割分注状況、連続輸血状況について検討した。比較の時間帯は、月曜から土曜の8時～17時を平日日勤、17時～翌8時を平日当直、日祝日、の3区分とした。以下、R:RBC、F:FFP、P:PCとする。

【結果】総依頼数324件(R:137、F:154、P:33)、患者数107名(R:44、F:55、P:8)、同一製剤連続投与69名(64%)。総出庫件数457件(R:232、F:186、P:39)。依頼時間は平日日勤193件(60%)、平日当直75件(23%)、日祝日56件(17%)。使用時間は、平日日勤220件(48%)、平日当直181件(40%)、日祝日56件(12%)。平日日勤使用の分注割合は、R:89%、

F:80%、P:90%で100%ではなかった。主な要因は使用時投与量不明、術中使用であった。また、未分割で分注した製剤数は、R:2件、F:11件、P:4件あり、いずれも単回使用で追加準備はなかった。

【考察】使用時間において平日日勤、平日当直間の差が8%であり平日当直での使用が多いことがわかる。そのため、平日当直での分割および分注が可能となればタスクシフトとして医師、看護師の業務軽減に繋がると考えられる。また365日24時間分割対応可能と仮定して全例分割した場合、連日輸血使用した患者中、製剤及び交差試験の有効期限から同一バックの使用が可能な人数18名、使用製剤数はR:38本から9本、F:48本から22本、P:8本から4本の削減が可能と推測された。これらは製剤の有効利用にとどまらず、医療費削減や免疫感作の減少、交差試験の採血や検査のマンパワー削減にもつながる。業務拡大と継続のため、様々な視点で臨床と情報を共有し運用を整備していきたい。
TEL)04-7092-2211(内線3448)